

姥捨

△2△

奥野 忠昭
え・題字 犬童 徹

陽の中からすぐに影に入ったため、玄關はしばらく闇の中だった。その中で涼子の大きな眼だけが宙に浮いてこちらを見ていた。

「洋子さん、そんなにきれいだったら、なぜわたしなんかを好きになった」

「大きな声を出すな。息子に聞こえるじゃないか」

「わたし、孝ちゃんやおかあさんに氣を使っているじゃない。暮しはしないわよ。不美人で氣の強い女よ。いやだったら別れてあげるわ。洋子さんと別れなかったらよかった、そうおっしやい。ね、そうおっしやい。このうそつき、自分にも他人にもうそばかりついて生きている。うそつき野郎」

「わかってる。わかってる」

ぼくは涼子の肩を抱いて、応接間へ連れていった。そこには母も息子もいなかった。ぼくはふううと息を吐いた。息まで力がなかった。

ぼくは台所でビールをぬき、涼子とぼくのぶんを持って、再び応接間へ来た。

「新しいホームの出発のため乾杯」

涼子もしかたなく、コップをあげた。

「うそをついて逃げるようなことはやめな」

部屋には広いガラス障子から陽が入り、こまごました家具の輪郭をいつそう鮮やかにした。コップの泡の中にまで小さな陽があった。

「そうするよ」

合わせたコップの音は淋しかった。

「乾杯」

ぼくが言った。泡を口いっぱいに入れた。ビールは苦かったが、いっきに喉の奥へ流し込んだ。涼子もまた顔をしかめながら飲んだ。

二階では母が息子の名を呼びながら手を取っていた。

「どうだい。この家、氣にいらっているのかい」

母は手を握るだけでなく、肩にまで手を載せながら息子の顔に近づいていた。膚と膚は数ミリしか離れてはいず、その間に濃密な言葉ではない言葉が流されていた。息子は最初、それをおっくうがっていたが甘い言葉が流され、にこやかな表情が彼の頬にひっきりなしに放たれると、彼の抵抗は徐々に犯され、時々、うれしそうに表情をした。

「おばあちゃんの手も握ってよ」

息子はマンガ本から目を離し、母を見た。

母は彼女のすべての力を一瞬に集中させ、軀全体を輝やかせた。母の顔から皺が消え、細い腕の動きが若やぎ、首筋まで乳色になった。艶っぽい膚は柔らかな息子の膚に近づき、その間に甘美さが波立った。

「まるで恋人みたいね」

いつ登ってきたのか階段の中段に立ちながら涼子もそれを見ていた。

「おばあちゃん、好きかい」

息子はおやつを口にほうり込み、マンガ本の方に目をやろうとしたが、母はそれを許さなかった。

「おばあちゃん、好きかい」

息子は食べかけたお菓子を途中でやめ、肩を極端に縮め、とまどっていた。

母は息子をしっと見つめ、それから笑った。ぼくはその中に怖ろしさを読みとった。首筋に寒イボがたった。その場所を離れたかった。だが、その前に記憶の襞に隠されていた光景が思い浮かんでしまった。二十年以上も前の出来事が鮮明に形を造ってしまった。

あのとき母はいままで聞いたことのない獣じみた声を胸の奥底から出した。

「どうした」

寝ている母の近くへひざまずいた。寝まきは腰ひものところで重なり、あとはだけていた。乳房は心臓の鼓動とともに揺れ、それは大地の中に埋もれているものが蠢めいるようだった。

「注射のせいだ。あのやぶ医者め」

ぼくはまだ若い医師が母の胸を開き、聴診器をあてた光景を思い出した。母の胸は夏のように輝き、たゆたっていた。その上に置かれた医者が長い蛇に見えた。ぼくは生殖器が充血するのを覚え、あわてて母の見えない部屋に隠れた。

「閉経期に起こるんですよ。とくに若い人には」

ぼくは耳をそばだてていた。ざわめきが嵐のように襲ってきた。

医師の注射箱を開く音がした。銀色の金属の箱が浮かんた。注射器がメスに見え、それが母の腕にさされ、そこからも血が流れた。

「使わないものはやさびちやいますよね」

母は淋しく笑った。

「まじめに生きてこられたんですね」

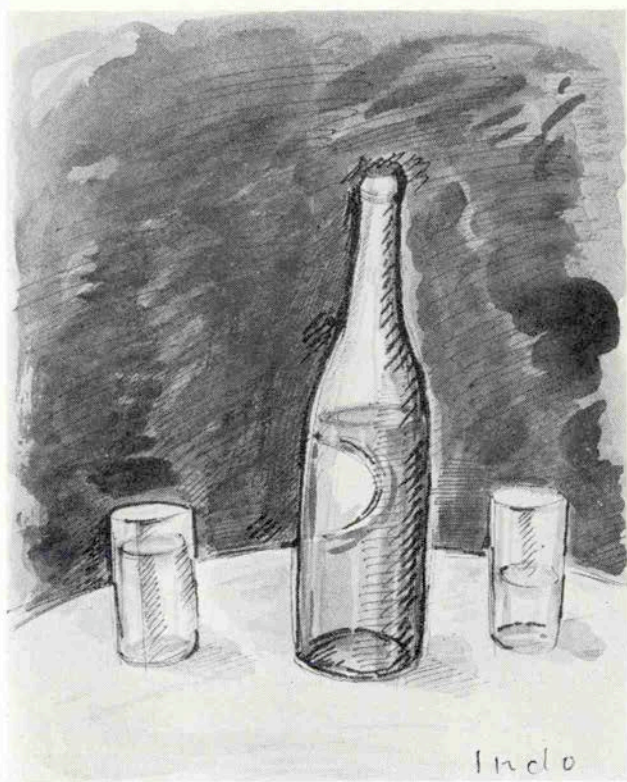
医師が言った。

「ええ、あの子だけを頼りにね」

医師が帰ったがぼくは見送らなかった。

「ちよつとさわってみ」

母は浴衣の皺のいった褥をいっそうはだけた。



大きな乳房は崩れずに丸まっていた。乳首の褐色は落とされた絵具のように滑らかな膚に侵み込んでいる。

確かに心臓の鼓動が乳房にまで伝わっている。紅色の突起が小さく規則的に揺れた。ぼくはその上に掌を置いた。突起の先から頭の芯まで直結する神経があった。頭は小さな棘が刺ったふうだった。

「あの注射打ったらへんな気持ちになる」

母はまた息だけの声を吐いた。

「そんなとこやったらわからへん」

ぼくの手は心臓の鼓動のもっとも激しく聞こえるところを捜して這った。膚の温みが、柔らかく伝わった。掌が止まるとそこやない、そこやないと言った。それからかすかな息だけの声を何度も吐いた。

「あの注射打ったら、ほんまに変な気持ちになる。ほんまに変な」

母の声はどこか別の世界から来るようだった。ぼくの感じられない、まったく別の世界。ぼくも、その世界へ引き込まれていくような気がして怖ろしくなった。ぼくの心臓まで母と同じように打ちだった。

ぼくはできるだけ大きく掌を上げ、思いっきり乳房を握った。まるで乳房の中に心臓があるように。

「どうや速いやろ」

ぼくは首をふった。母は笑った。笑いの中からあの声が聞こえた。ぼくはあわてて手を引こめた。そのとき膚に爪をひっかけ、乳房を裂くようなひとすじの血が滲んだ。母はぼくを見つめながら笑い続けていた。

ぼくは息子のそばへ行って肩をたたいた。息子はぼくを見上げ、きまりわるそうにした。マンガ本を持ちながら立ちあがった。母が手を離すと、ふうと鼻から大きな息を出し、片手を軽く胸にあてた。息子もぼくのように心臓が速く打ちだしたのにちがいない。

「さあ、これ、二階へ行って行ってくれない」

ぼくは母の近くにあった包みを指さした。息子はそれ

に手をかけようとした。

「ああ、これ、ここへ置いといて」

母は両手をついて、それを胸の中に入れた。

「ね、それ、何入ってるの」

息子が言った。母が風呂敷をといいた。中から父の位碑と古ぼけた写真が一枚出てきた。位碑は黄金色でところどころはげていた。母は坐り直し、それを胸に抱いた。誰かそれをねらうものから必死に守ろうとしているふうだった。

「二階の本棚の上に飾ろうと思って」

「いいえ、わたしがちゃんとお祭りしますよ」

「見せて、見せて」

息子は母の掌から写真をすばやくぬきとった。母は息子をきつと睨んだ。

「これおじいちゃん」

「ずっと、棚の上に飾ってあっただろう」

「へえ、これおじいちゃんか」

「さあ、返して」

母は写真の先を持って、引きぬこうとしたが、息子は指でしっかりと押えた。息子はめずらしい動物でも見るように、眼を大きく開いたり縮めたりした。母の顔が曇り、また手を出して写真に手をかけた。手が震えていたがそれは怒りのためだろう。なんてことをするんだろう、この子は、母はそう思っているに違いない。

「さあ、はやく返して」

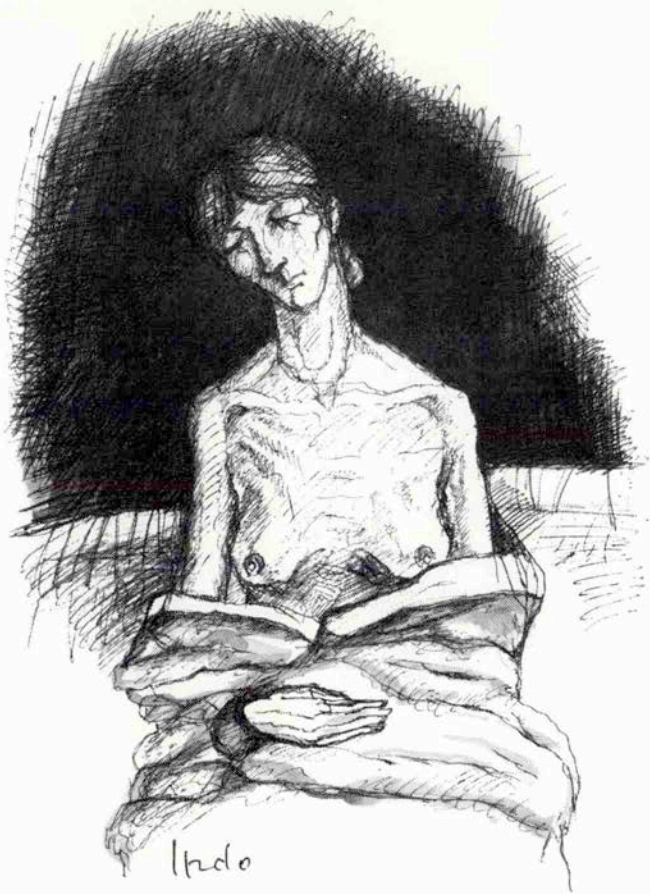
息子はなおも見続けている。母は暇まで揺らし、残されたわずかばかりの力を一点に集め、それを奪い返す準備を始めたようだった。おまえたちに汚されてはたまらない。母の血の気のない膚が最期の声をふりしほっているふうだった。

「年とってるね」

「ぼくより3つも年が若いときのだよ」

「うそだ」

母の手に力が入った。写真を引きぬこうとした。だが



息子の力の方がまさっていた。写真は真中で苦しい音をたてた。

「苦労したからだよ」

母が言った。

「孝のおとうさん、軀が弱くてね、お金をうんと使ったんだよ。働きすぎて死んだんだよきつと」

「おとうさん、軀、弱かったの」

「そうらしいな」

「おとうさんが殺したみたいなものさ」

「そんなこと言わないでくださいよ」

ぼくは息子から写真を取りあげた。よれよれの背広を着、山の中で疲れたように坐っていた。色のない写真なのに、薄くよんだ頬が想像できた。細長い顔は戦闘帽

のひさしで影になり、淋しそうに足を組んで坐っていた。何か思い悩んでいるような、たよりない孤独な匂いが軀全体から滲み出ている。

「まるで五十に見えるのか」

そばに立っている涼子に見せたが、彼女はちらっと目を流しただけで、すぐに返してよこした。

「返して、さあ」

母が言った。

「返してあげなさい」

涼子が言った。

父は母のものであるけれど、ぼくのものでも孝のものでもないと思った。この家に飾っておこうと思っていたが諦めた。ぼくはもう一度父の写真を見た。父はふらふらと立ちあがって、歩き出した。だがそれは前へではなく後ずさりだった。父の足はたよりなかった。土の上に立っていないようだった。それでもけんめいに足を動かしていた。軀を左右に揺らしながら、何ものでもないものを踏みしめながら、後ろへ後ろへとずり落ちていく。その後ろは影だった。色のない深い影だった。

ぼくは父の墓石に水をかけた記憶を思い出した。蟬のなき声の激しい中で、何も考えないで水をかけた。夏の陽の中で墓石はまわりの緑を映して、熱い湯気を送り返した。それが父との唯一の記憶だった。あとは何もない、

実体のない観念だけだ。

「さあ」

母がまた言った。ぼくは写真を手わたした。母は位碑と写真を抱えて、下へ降りていった。しばらくして、母の念仏の音が聞こえた。今、母の中に父の実体が蘇っている。父の色々な顔付がある。父のさまざまな仕草がある。それが羨やましく思えた。

ぼくは息子のことを考えた。息子も10才のときから洋子の実体が消える。彼の中に母の空洞ができる。洋子の連続に涼子をとらえ、母を考えることができるだろうか、それともぼくと同じようにそれは空洞のまま残り続けるのだろうか。それは残酷なことだ。自分がそれをいちばんよく知っている。だが、その残酷なことをやらねばならない。ぼくがこの世界で生き続けるために。

「ずいぶんあの写真に未練がありそうじゃない」

「不思議なんだ。むこうの家では気にならなかったのに」

「あなたは過去をなかなか棄てられないのよ、欲深いのかしら」

「あれ、この家に置いときたかったんだが」

「あれだけしか、もうおかあさんにはないのよ。あげない」

息子は再びマンガ本を読み出し、ぼくと涼子はゆっくり階段を下りた。

母は玄関へ行つて包みを持ってきて、それをあけた。中からいろんな野菜がでてきた。野菜は青々としていた。細長いキュウリの横になすが恋人のようにくっついていて、そのまわりを柔らかな葉が包んでいた。

数年前から、母は野菜作りにせいを出した。数平方メートルにもみたくない小さな庭をみんな畑に変えてしまった。こちらへ引越すとき、みんなつぶしてきたが、土の中にはまだ植えたばかりの種もあった。

土をなめるようにして世話をしていた母を思い浮かべた。これから母は何に時間をついやすのだろうかと思っ

た。

「おじょうずですね、おかあさん」

母は初めて涼子を真すぐ見て微笑んだ。

「百姓をしたいんだって」

「作るところがなくなつてがっかりでしょう」

母の微笑が消えた。灰色の幕が薄く顔を被った。おまへがそうされたのといわんばかりの視線を涼子に送った。

「しかたない、こんなことになったからね」

「あの家に住んであげたら」

涼子が言った。

「君もくるかい」

ぼくが言った。

「やめさせてもらうわ」

涼子が言った。母は笑った。怒りも諦めもすべて混じりあった笑いだった。

「これ、いただけのかしら」

「この子が、これがすきでね」

母は野菜を指さした。

「うすく切つてバターイタメをすると喜びますから」

涼子はふくろごとそれを台所へ運んで行つた。ぼくも少し残されたものを運んで台所へ行つた。涼子はぼくの耳元へ口を寄せ、バターイタメは絶対つくらないからねと言つた。あなた再生するつもりなんでしょう。だってら過去を洗い流さなきゃだめよとつけ加えた。

息子が階段を上つて行く音がしたがすぐに降りてきてぼくたちのそばに立った。

「ね、これどこへ飾つておこうか」

洋子の写真を突き出した。赤いスカートをはき、その横で息子が笑っている写真だった。

「どうした」

ぼくの声はうわすつた。すぐ横の涼子を見やつた。涼子の眼球はまったく動かず、写真の上にくぎづけになつた。頬は反対にひくひく動いた。

(つづく)

明日のKOBEを創る 130人のリーダーが情熱をこめて語る

FASHION OF KOBE

神戸ファッション都市論

自己主張のある余暇とファッション文化
神戸のモダンライフの流れを探る
ファッション都市は日常生活の集積から
スポーツライフがファッションをリードする
ファッション文化に不可欠な創造性
住むのに最高の町、日本の外国、神戸
神戸文化の背景は国際的モダニズム
ファッション都市づくりの核にメッセ(見本市都市)の設置を
ファッション都市はショピングエリアから
ファッション都市の舞台装置を創る神戸の家具
洋菓子こそ神戸文化のバロメーター
全国の80%を集散する神戸の真珠業界
ファッションは生活のゆとりのなから生まれる
トータルファッションのなかの神戸シユーズ
百年の伝統と世界的技術を誇る神戸の洋服
神戸の生活文化を培うデパートメントストア
ファッションナブルな神戸の魅力をつくる北野町界隈
世界的な水準を誇る神戸の味覚文化
長期ビジョンをもったファッション都市づくりを
ファッション都市に必要な空港とホテルと見本市会場
ファッション情報センターの設置が急務
ファッション都市を創る人材を養成する
豊かな文化が経済活動のエネルギー源となる
既成市街地の整備と未来の海上都市の建設
あすの神戸、国際情報文化都市の創造を目指して

編集 / 月刊「神戸っ子」

発行 / コミュニティサービス株式会社

(〒650)神戸市生田区東町113-1大神ビル7F TEL.078-331-2246

お待ちいたしました
市内各書店にて発売中！

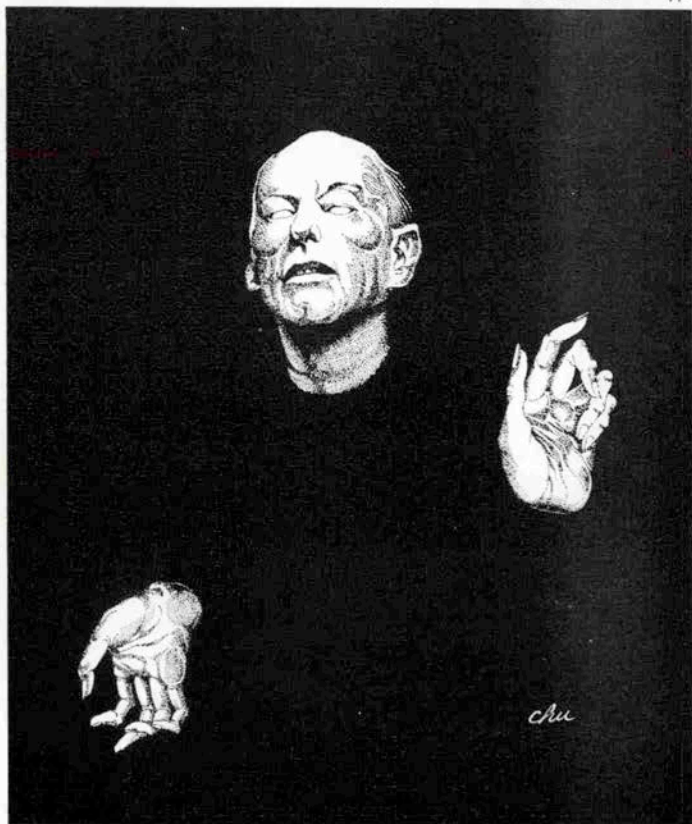
KOBE MOOKS No.1
定価 1,200円
(送料 200円)
A4版 220頁

生活

△2▽

吉峰 正人

絵・榎 忠



「止まれ！」ボスの声。まわりの動きがその声によってビタリと止まる。気配が動かなければぼくも動けない。耳と鼻に緊張の糸を張る。何がはじまるのか？

車のエンジン音が聞こえる。近づいてくる。静寂の中でそれは場違いな感じで響きわたっている。ガソリンの臭いがする。ぼくのすぐ近くでドアが開く。

「早くしろ！」ふたたびボスの声。彼はいつも命令調に、怒ったように言う。ボスだからそんな口調になるのか、ぼくに関わっているこのような状態がそうさせるのか。奇妙なことに、その声を聞くとこちらまでビリビリとしてくる。早くしろと言われたらそうしなければならぬい

ような気になってくる。

ふと、まわりの動きの中に犯罪の匂いを嗅ぐ。営利誘拐？それしか考えられない。そう考えていくとある程度この状態も納得できる。しかし、ぼくをさらってどれほどの利益があるというのか。ぼくに特別の知識があるわけでもない。ぼくの知らない大金を妻は隠し持っているのか。ボスの声に促がされ誰かが背中をつく。乗り込むより仕方がない。

ドアが閉まる。急発進で車は動く。スピードがある。目かくしされているのでスピード感はそれほどではないが、かなりの速度である。車体が揺れ、タイヤがたえず

きしんでいる。何をそんなにあわてているのか。タイヤと同じように、まわりの気配がいつまでも音をたててやめない。気の毒なことだ。縛られたばかりよりも、縛った奴の方が落ちつけないでいる。どうなっているのか知らないが、ここまできたんだ、お互いそんなにあわてることではないよ、そう言つてやりたいが、残念なことになるぐつわが邪魔をする。

目かくしもそのまま。両手も後ろで、腰のあたりで縛られたままだ。ロープの縫い目がこすれながら手首にくい込んでくる。誰も何もしないのに、徐々に縮まっていく感じである。指先は痺れ、痛く冷たい。血が手首のところで止まっている。流れる方向を探して、どくんどくと音をたてている。そして、相変わらず両脇から誰かにかかえられている。

どうしたって逃げられないのに用心深い連中である。

何故こうまでするのか。それほどまでして誘拐する価値がほくにあるのか。誰も知らない化学記号を発見したわけでもなし、宝島の地図を持っているわけでもないのに。

価値？……逆かもしれない。無価値、害、罪……ふと、犯罪者という言葉が浮かぶ。こういう場合、あらゆることを想定しないと気がすまないようである。犯罪者とぼくが直結する。何か悪いことをしたのかもしれない。その罪を償いに連れて行かれようとしているのか。何をしたのか？ 先程のドスのきいた男の声がよみがえる。あんないい女を捨てて……パラバラにして溝へ捨てたのか？ ぼくは殺人者か？

いつ？ どこで？ そうか、あの時か、それしか考えられない。とうとうやつてしまったか。

あの時……時々、ぼくは人ごみの中で目まいがする。貧血性でもなく、体が悪いわけでもない。原因がわからないと医者も首をかしげる。最近、その回数が多くなっているのが気にかかる。

目まいがはじまるとまわりの人がキラキラとしてくる。この症状は他の人にもあるのだろうか。そのキラキラが

ナイフに見えてくるのはどうしてか。何本ものナイフがその先をほくに向けて近づいてくる。ぼくは叫ばずにはいられない。「やめろ、それ以上近づくのはやめろ」しかし、ナイフの輪は徐々に縮まってくる。ぼくに向かってくる。まっすぐ立っていられなくなり、その場にしゃがみ込む。頭をかかえ、眼を閉じる。だが、もう手遅れだ。すでに眼の中の全てがキラキラ。思わず落ちてい

石を握りしめる。

石を振りあげたところまでは覚えていた。が、いつもそのあとのことかわからない。知らないうちに、その二、三人を傷つけたのか。振り降ろした石の当たりどころが悪くて死んだ奴がいるのかもしれない。救急車のサイレンで自分をとり戻す。猛スピードで遠ざかって行くそれは、ぼくが負傷させた人たちを運んでいるのだろう。道行く人が立ち止まってぼくを見ている。指さし、何かを囁きあっている。事件か？ ぼくが起こしたのか？ そうでもなければ人がわざわざ関心を寄せるはずはない。ぼくは立ちあがり、走り出す。

とうとうつかまったのか。だとしたら、この先はわかりきっている。目かくしも後ろ手での腰縄もさるぐつわもうなずける。しかし、決して悪気はなかったのだ。よく覚えていないのだ。犯罪は確かな自信と道義を持った人間のやることである。ぼくは犯罪者としてのモラルに欠けているのではないか。

タイヤをきしませ車がカーブする。傾いたぼくの体を右脇につきそっている奴が支える。

「もう少し辛抱してくれ」声は左側から聞こえる。ボスのようである。耳元で言いながらさるぐつわを解く。後頭部の結び目はほどけたが、口の中でそれはからみ、なかなか離れない。それはもう手拭というようなやさしい感じのものではない。重さと臭いを持った凶器である。唇と舌に吸いつき、歯に巻きついていて。構わずボスは引っぱる。歯がぐらつき、舌がひっくり返る。口の中にドライアイスが直接押しつけられ、ピチャリとくっつい

たところを力任せに引きはがされた感じである。口の中のあらゆる表皮がめくれ、血が出ているにちがいない。しかし、贅沢は言うまい。少々の血と引き替えてでもとりはずしてもらった方がありがたい。

「悪く思わないでくれ。おれたちは頼まれただけのことなんだ。あんたに恨みはない」ボスは喋る。声がするたび、耳から顎にかけて熱い息がかかる。ボスの言葉に匂いがある。煙草のそれでもなく、整髪料でもない。まさか化粧をしているわけではあるまい。何の匂いかよくわからない。しかし、ぼくのふくらんだ鼻はボスのそれを敏感に感じとっている。他の何十万の人が息を吐きかけてきても、ぼくは迷わずボスを嗅ぎあてることができるだろう。

果して、妻のそれはどうだったのか。どうしても思いだすことができない。縛りあって暮らしたことがないからか。目かくして抱いたことがないからか。盲人は自分の妻の匂いを知っているのだろうか。いや、妻だけでなく、家族も帰る家も全てを指先と鼻だけで見分けるのか。それでいて決してまちがわれないのは、知る方法がそれしかないからであろう。唯一であることがかえって確かなものを作りあげているにちがいない。ぼくは妻を見分ける確実な方法を知らない。万一、このまま両手の自由が奪われ、目かくしがはずされなかったら、ぼくは永久に妻を捜しあてることができないかもしれない。

「大丈夫か？ 痛くないか？」言いながらボスは指の腹でぼくの唇を撫でる。女にしてみらうならともかくも、いかつい声をした男ではあまり気持ちのいいものではない首を振って避ける。が、動ける範囲がしれている。拒みきる気力もない。ボスの指はそこから離れない。それどころか口の中まで入ってくる。いささか異常を感じる。指は舌をつまんで入っている。噛み切ってやろうかと思うが、いざとなるとそういう行為は起こしにくいものである。そういう行動は瞬間のものであって、考えているうちはできない。思うに、ぼく自身、まだはつきりした状態が

つかめていないようである。何かのまちがいで、そんな気分が勝っている。地震が起るぞと予知されても揺れてみなければわからないように。この先どんな危険が待っているのか実感としてこない。

「ほんとうはこんな方法をとりたいくなかった。できることなら穏便にすませたかった。しかし、どんなに話しあっても、おそらくあんたはわかってくれなかっただろう。だからこんなことになってしまった。あんたがいけないのだ」ボスは喋りつづける。つかまえてしまったことので安心したのか、それともぼくに特別の親しみを感じるのか、その口調は急に柔らくなる。しかし、言っていることのほとんどがよくのみ込めない。誰に頼まれたのか。警察が何を頼むのか。そうか、警察ではないのか、ぼくと何を話しあおうというのか。犯罪者にどんな註釈がいるのか。そうか、ぼくは殺人犯ではないのか！

だとしたら、何故こんなことをされなければならないのか。ぼくの何が、誰に対していけないのか。考えはじめるとますますわからなくなってくる。たまらなく自分に腹がたってくる。わけもわからず、何故つかまってしまったのかと。

何かを言わなければならないと思う。が、口元に力が湧いてこない。口の中は重く、疲れきっている。舌の先に手拭の糸屑がくっついていている。それを吐き捨てようとするが思うようにいかない。しみ込んだ臭いまで吐くことはできない。そして、なによりも、肝心の言葉を忘れてしまっている。どこをどう動かせば喋ることができるのか思いだせない。

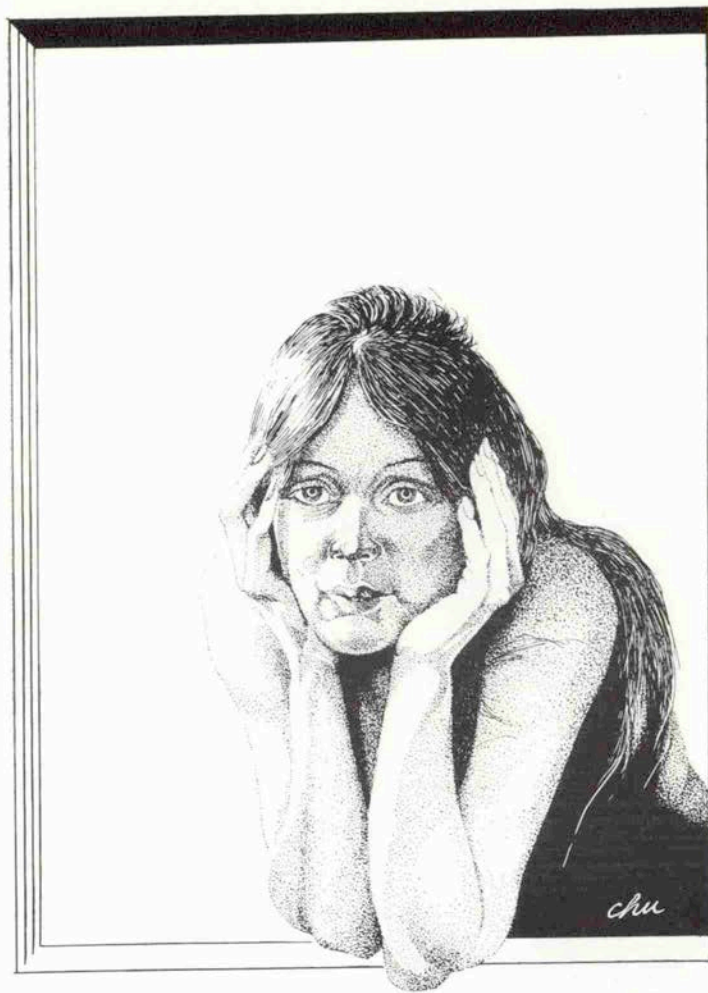
「こんなことをするのも皆が仲良く、しあわせであってほしいと願うからだ。そうでも思わなきゃ、こんなことやってられないよ」ボスは喋ることをやめない。これまでの暴力を一生懸命弁解しているように聞こえる。どんな理由づけをされても今更許すわけにはいかない。しかし、喋ってもらうことはありがたい。ボスの言葉の一つ一つをたぐり寄せながら、ぼくは考えつづける。

ぼくは今のままで充分しあわせである。結構妻とも仲良くやっている。時々、一緒にいることが恐ろしくなってくるが、そのうち、きっと馴れるだろう。皆、そんなに明確に何もかもわかって暮らしているわけでもあるまい。わからないから、妻という都合のいい他人をそばにおいて、わかれうとしているのかもしれない。と、そんなことを思っているうちに、さるぐつわが解かれた口のごとか一部、多分治療済みの虫歯の奥あたりで、自由が戻ってきたことをようやく感じはじめたようである。束縛から解放されるとその部分でやたら騒ぎたくなるものらしい。

「こんなことをして、このままですむと思うのか」自

分では高飛車に強気に言ったつもりだが、どうしたことか、感情そのままに声は出ない。言葉は口の中ですでにつぶれ粉々になる。鉄粉入りの菓子を食べているようである。甘くもなくうまくもない。ただ口腔のあらゆる部分にぶつかり突き刺さる。自分の声までがぼくを脅迫する。おまけに喉は乾燥剤のつぶつぶを放り込まれたように渴ききっている。今は唾も湧いてこない。声を出すと体中針だらけのミミズが喉の奥から這い出してくる感じであるしかし、ぼくは喋る。黙っていると損をしたような気がする。

「君たちはすまずつもりかもしれないが、そうはさせない。今後の出方によっては大きな問題にしてやる」三匹



ほどの針ミミズが鼻の裏側まで這いあがってくる。

「すむかすまないか、あんた次第だ」一転してボスの声が凄む。「それはどういう意味だ、ぼくが何をしたいというのだ？ 冗談にしてはひどすぎるぞ」ボスの凄みに負けずに喋る。が、声は相変わず自分に戻ってくる。一旦は外に出ていくが、すぐ、耳のつけ根あたりに吸いとられる。気がつくとも腹に沈殿している。自分の声や言葉を感じることは妙に恐ろしい。全然知らない誰かがぼくの中にいるようである。

「詳しい事情は知らないが、ともかく一度は奥さんのもとへ帰ってあげなきゃ。話はそれからだ。別れるにしてもやりなおすにしても、よく話しあってからでないとお互いが不幸だよ。このままでは奥さんが気の毒すぎる」ボスの口調がまたやさしくなる。ぼくの肩を抱き、指先に力を入れる。

奥さん？……その言葉につまずく。妻のことかと考える。当然のことである。まさか隣の奥さんではないだろう。奥さんのもとへ帰る？……ぼくはいつも帰っている今も帰る途中である。たまたま今日は遅くなったが、一日だって帰らなかった日はない。他にどこへ行くというのか。そんなに親切にぼくを迎い入れてくれるような場所がどこにあるのか。そうか、人違いか、やはり。

「君たちの言っていることはよくわからない。気の毒だ。人違いのようだ。君たちに言われなくてもぼくはいつも妻のところへ戻っている。帰ってくるなど言われても帰るだろう。今もその途中だ。君たちにこんなことをさねなければとくに着いている頃だ。今頃はあいつも心配して、その辺まで迎えに出ているかもしれない。妙な誤解でもしてもめたら君たちの責任だよ。災難だと思っ

てあきらめるが、迷惑だよ。まったく」舌の上で言葉を確かめながら喋る。感覚が戻ってきたようである。人違いだからといってこのまま泣き寝入りするのはどうにも虫がおさまらない。文句の一つも言っておいてやろう。

「本来なら、その奥さんに頭の一つも下げてもらうとこ

ろだが、まあ、そこまですることもないだろう。わかっ

てもらえさえすればいいのだから」

「それがあんたの手だつて。いつものらりくらりとうまいことを言いがたいなくなつてしまつて。そういう言葉にはくれぐれもだまされなくてくれと奥さんに念を押されている。ほんとうにもっともらしいことを言うよ。でも我々には通用しない。それより黙って帰った方があなたのためだ。奥さんが言つてたよ、帰ってきてくれさえすれば今までのことは忘れるつて。なかなか言えないことだよ。いい女じゃないか。うらやましい限りだ。あんないい奥さんを捨てて、今までどこへ行つていたのかね。他に女でもできたのか？」

「やめろ、許さんぞ。ぼくたちはりっぱな夫婦だ。ぼくのために食事を作り、裸にだつてなる。笑いたいと言つてはダダをこね、泣きたいと言つては甘えてくる。彼女の全てがぼくのためにできている。君たちがどんなに頼んでもあいつは決して抱かれないだろう。食事の用意もしないし風呂も沸かさない。一緒にいることさえしないだろう。しかし、彼女はぼくの横でいつも眠っている。手を伸ばせばすぐのところにいる。あいつはぼくの妻だ」

「裸になら売春婦だつてなるさ。情のあるパンパンなら食事だつて作るし、風呂だつて一緒に入ってくれるよ。一緒に死んでほしいと言われたこともあるよ」

「失礼にもほどがあるぞ。妻を売春婦にするつもりか。今日だつて帰りが遅くなることは言つて出かけた。妻も承知のことだ。君たちにとにかく言われる筋合いはない。とにかくぼくを帰してもらおう。そうすればわかることだ」

「だから、今帰るところなんです。あんたさえこのまま帰ってくれたら、それで皆がうまくいくんです」

そうだ、帰れば全てがわかることだ。しかし、どこへ帰るのか。ぼくの家ならとくに着いているはずである。わざわざ車に乗るほどのことはない。県道沿いの道を十分ほど歩けばいい。やはり何かのまちがいだ。人違いのようだ。

(つづく)

★神戸っ子トラベルコーナー

★世界の豪華客船「グリンエリ
ザベスII」優雅な旅
船室／ファーストクラス10室（ワ
インベッド、バス付）

▲香港コース

日程／3月15日～3月21日

費用／¥440,000

大阪（航空機）→香港（Q E
II）→神戸→横浜

▲ハワイ・西海岸コース

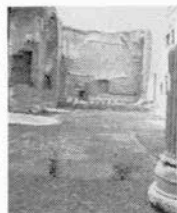
日程／3月22日～4月5日

費用／¥920,000

横浜（Q E II）→ホノルル→サ
ンフランシスコ→ロスアンゼルス
→（航空機）→大阪

★ヨーロッパラックスツアー

ブルカマラン宮下港とともに
ミラノではドオモ広場、ヴィッ
トリオ・エマヌエーレ回廊、中世の
市バビナなどを観光。またモンブ
ラン、バルビゾン（芸術家村）、
カルチュ・ラタン……見どころが



カラカラ大浴場跡

いっぱいのお土産です。

日程／6月17日～7月1日

費用／¥594,000

大阪→東京→パリ→ミラノ→ナポ
リ→カプリ島→イスキャ島→カプ
リ島→ナポリ→ローマ→ジュネー
ーブ→パリ→リヨン→パリ→東京→
大阪

お問合せ、お申込はトラッドウェル
トラベルサービス神戸（森合区機
上通8-1-3 明治生命ビル）
担当/島村 25110021

★ハワイ研修旅行28日間

セミナーで英会話をマスターして

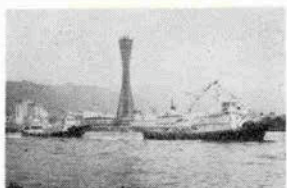
可愛い店とか、何だかともかくす
てきな街ですね。

あと2年間の関西暮らし（留年
しなければ：なのダガ）せいぜい
神戸の街の探索をしようにとほりき
っているのです。これからもうい
んな穴場の紹介を期待しています

▲西宮/大野栄一V

★「神戸」で生まれ育てられて十
六年。『都市三代滅亡論』では十
都會で三代つてばその一族は滅
亡するといふ説も、「神戸っ子」
を読んで「神戸」について見直し
てみるその説はあてはまらない
ように思われる。山・海があり都
市とは思えないような自然環境。
まさに貿易都市神戸、ファッション
都市神戸、日本を代表する美し
い神戸の中で「神戸っ子」は僕ら
ち神戸っ子に神戸らしさを教えて
くれる。 ▲垂水区/前畑国光V

＜神戸っ子愛読者サロン＞



talk and talk

★関西に下宿して2年目の僕にと
って、この「神戸っ子」の巻末マ
ップは、大変重宝しています。

神戸の人間は、大阪とは違うん
だ、というプライドがあるみたい
ですね。でも、そのプライドに負
けないくらい好きで住んでいる街だと思
います。坂道とか小さな道ぞいの

★ばくくの神戸（コウベ）日記

フリータイムはあなたのプランで
現代アメリカのアウトラライフ
を満喫して下さい。

日程／2月26日～3月24日

費用／¥298,000

★シンガポール・バンコク5日間

まぶしい緑の中に白い建物が並ん
でいる英国風な清潔な庭園都市シ
ンガポール。そして仏教文化と南
国の情緒がどこかで調和した美し
い街バンコク。アジアの個性を対
照する2都市周遊の旅です。

日程／3月18日～3月22日



ローズ・ガーデン

1st 74年3月24日
神戸回教寺院との出会い

2nd 74年3月29日
二人のサウジアラビア人と西
宮の女子大生とで須磨離宮公
園へ行った。

3rd 74年8月9日
モスクで20人位のバキスタン
人の集団と対面、船まで招待
された。

4th 75年5月16日～18日
「神戸まつり」楽しかった。

5th 75年12月13、14日
ベル（スウェーデン人の友達）
の家でタコあげやっぺん。

6th 77年8月5日～8日
ジャズ喫茶で4時間ホバる。

7th 77年12月10、11日
「神戸っ子」の美女お二人と
夕食をともにする。

間はやっぱ一人だから淋しいけ
れど頑張らなあかん、と思いま
した。そして、いつまでも神戸を愛
し、「神戸っ子」と友達でありた
い。

★ユニークな本の「神戸っ子」の
みなさま、バクヤン、編集長、ミ
コちゃんお元気ですか。

今、スイスのチューリッヒの町
です。静かな夜、雪が降る湖の中
には元気が白鳥が。

（雪のチューリッヒに）



雪化粧のチューリッヒ

▲ハイジ/前畑昌弘V

費用／¥170,000
大阪→香港→バンコク→シンガポ
ール→香港→大阪
★ポストマンラソンとロスアンゼ
ルス・ハワイの旅9日間
日程／4月14日～4月22日
費用／¥398,000
お問合せ、お申込は国際トラベル
（森合区御幸通8-116、国際
会館2階）25118186
★サーフィンとスキューバダイビ
ングの旅4日間
真冬の日本を脱出して紺碧の南太
平洋グアムにてサーフィンとダイ
ビングをしよう。



青い海でサーフィン

日程／3月4日～3月7日
費用／¥88,000
大阪→グアム島→大阪
お問合せ、お申込はウシダグ
友の会（生田区江戸町95、ウシ
ダビル内）259113124

baLon collection series

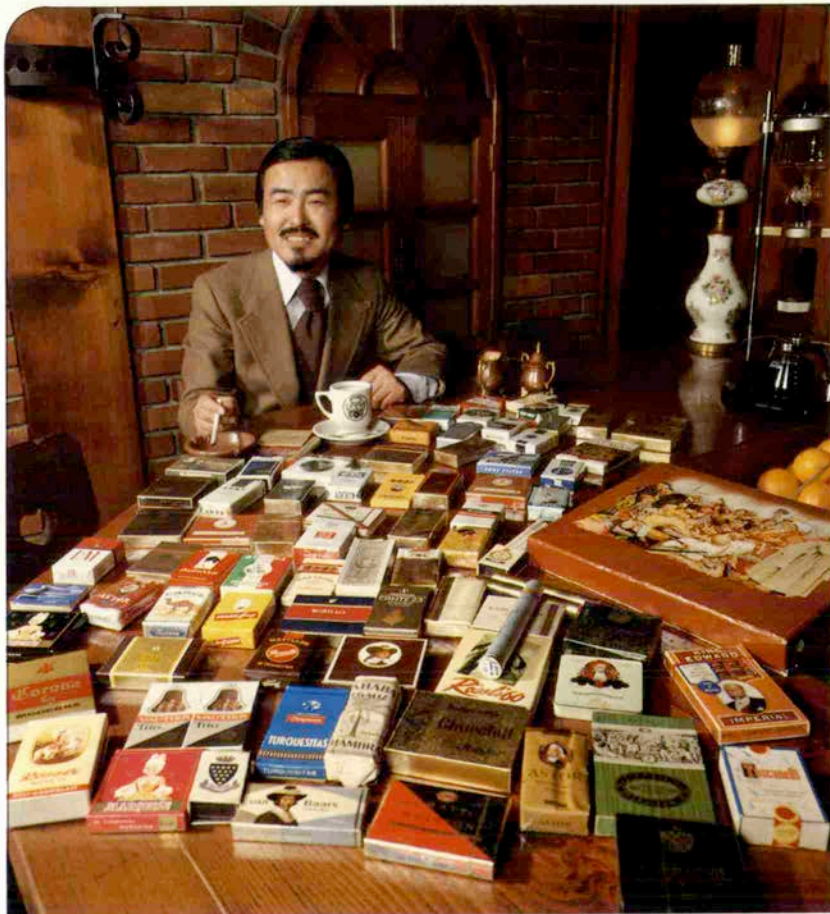
〈56〉 タバコ

大村 幸一さん

〈K.K. セントジョージ・ジャパン 専務取締役
神戸元町ライオンズクラブ幹事〉

月いつもブカブカブカ……なんて専売公社推薦みたいな唄がありましたネ「それほどヘビースモーカーでもないけど、外国ではカフェテラスでタバコを売っているの、色やデザインが素敵なのを集めてるんです」と大村専務。なるほどパッケージの大きさもさまざまでそれぞれのお国ぶりがよく出ていて、並べてみるだけで楽しい。特に大きな箱はロシアでも手に入りにくい珍しいタバコ、挽き立てのコーヒーを飲みながら格別の一服。

センター街店にて
カメラ/米田定蔵



バロン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ センター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ 神戸亭 三宮センタープラザ店
TEL 332-6361 AM10:00~PM9:00迄



事五裏炭園

神戸市生田区元町3丁目46番地
電話(078)391-3156



この度神戸で二百年来の風雪に耐えた江戸時代の由緒ある豪農の民家の古材を使って炭焼ステーキのお食事処を建て、みました。二メートルに及ぶ積雪にも揺るがなかった太い垂木合掌造りの屋根表のすし竹、そして古丹波の壺と徳久利、古伊万里の茶碗、猪口等々、自在釣のある圍爐裏端で、ほんの古い良さと充分に味わっていただきたいと願っております。

神戸のうまいもとドリンキング

★日本料理

- 讃岐名代うどん **あこや亭**
 舞合区旗塚通7-5 ☎ 231-6300
 トアロード店 ☎ 391-2538
 兵庫駅前店 ☎ 575-5306
- 北海道郷土料理 **蝦夷**
 生田区中山手通1-115東門筋東門会館ビル1階
 ☎ 331-7770
- 和食 **くれなゐ**
 三宮生田新道浜側中央KCBビル2F
 ☎ 331-0494
- 鍋も・おむすび **味噌**
 生田区北長狭通1-20 ☎ 331-3848
 お茶漬・がばた 三宮さんちカタウン ☎ 391-5319
- たこ焼 **ちばな**
 三宮センター街(旧柳路) ☎ 331-0572
- とうふ料理 **東家**
 生田区北野町3-53 ☎ 221-1148
- お茶漬・おむすび **ふる里**
 生田区北長狭通2-1 ☎ 331-5535
- かつばう吉 **本**
 生田区加納町3-95-1(ニュージャパン別館前)
 ☎ 241-3450
- 御食事処 **鳥光**
 焼鳥・肴 須磨本店 ☎ 731-5855 センタープラザ店 ☎ 331-6948
 さんプラザ店 ☎ 391-3696 三宮東門店 ☎ 331-4043
- 新和食処 **あじびる**
 阪急三宮駅山側 ☎ 332-3456

★西洋料理

- レストラン **アポロン**
 ティー・バーラー 舞合区八幡通5-6 ☎ 251-3231
- レストラン **皮〈あらかわ〉**
 生田区中山手2-9 ☎ 221-8547・231-3315
- ピザ&スナック **ガルの店**
 舞合区琴緒町5-1-7 西山ビル1F ☎ 241-9025
- ステーキハウス **グレル青山**
 生田区中山手通2-112-2(トアロード)
 ☎ 391-4858
- レストラン **クィーンズコート**
 生田区山本通2丁目31 ☎ 242-2469
- ステーキ& **神戸館**
 ドリンクス 生田区下山手通2-29-3 アマツビル1F
 ☎ 321-2955
- スカンディナヴィア料理 **ゴックスタッド**
 と世界の民族音楽の店 生田区山本通3-18 回教寺院前 ☎ 242-0131
- GALLERY & **SAN-MON三門**
 STEAK HOUSE 生田区中山手通2丁目98-99 ☎ 331-5817

- Café et **アンドゥトワ**
 Restaurant 生田神西 伊藤ビル1F ☎ 391-8639
- レストラン **スイスシャレー**
 生田区北野町3-48 アニルドマンション1F
 ☎ 221-4343
- レストラン **セントジョージ**
 生田区北野町1-130 ☎ 242-1234
- レストラン **男爵**
 生田区中山手1-18
 山手第一ビル1F ☎ 241-0778
- メキシコ小料理亭 **ティファナーナ**
 生田区中山手通1丁目4-12 パールコーポラスビル1F
 ☎ 242-0043
- Restaurant **ボナベチ**
 & Lounge 生田区北野町3-49 BKプラザ1F
 ☎ 222-5300
- ピザ・パブ **ピザ・パテオ**
 生田区元町通1-49(元町1番街)
 ☎ 331-9378
- フランス料理 **ビストロドゥリヨン**
 生田区山本通2-40-1 ☎ 221-2727
- ピッツアハウス **ピノッキオ**
 生田区中山手通2-101 ☎ 331-3545
- maison de **花屋敷**
 la mode 三宮フラワーロード市役所前 ☎ 251-0315
- ポリネシア料理 **フィッシャー・マンズ・ポート**
 海賊焼 神戸港第4突堤ポートターミナル
 ☎ 331-0301
- レストラン **フック東店**
 生田区栄町1-5-3 ☎ 321-3207
- レストラン **ムーンライト**
 グリル・鉄板焼 三宮・生田新道 ☎ 331-9554
 ☎ 331-2508
- レストラン **元町フルーツホール**
 フランス料理 元町1番街 ☎ 331-1987
- ステーキハウス **れんが亭**
 生田区下山手通2-34 ☎ 331-7168
- BARBECUE **六段**
 & STEAK 生田区元町通3 ☎ 331-2108
- 居酒屋 **ロス・ヒターノス**
 フラメンコショー 生田区下山手通3丁目22
 下山手セントラルハイブ ☎ 391-5431
- レストラン **フック神戸店**
 生田区栄町2-24 ☎ 321-3453
- 炭焼ステーキ **凱旋門**
 生田区下山手通2丁目6 新道ビル1F
 ☎ 321-3378

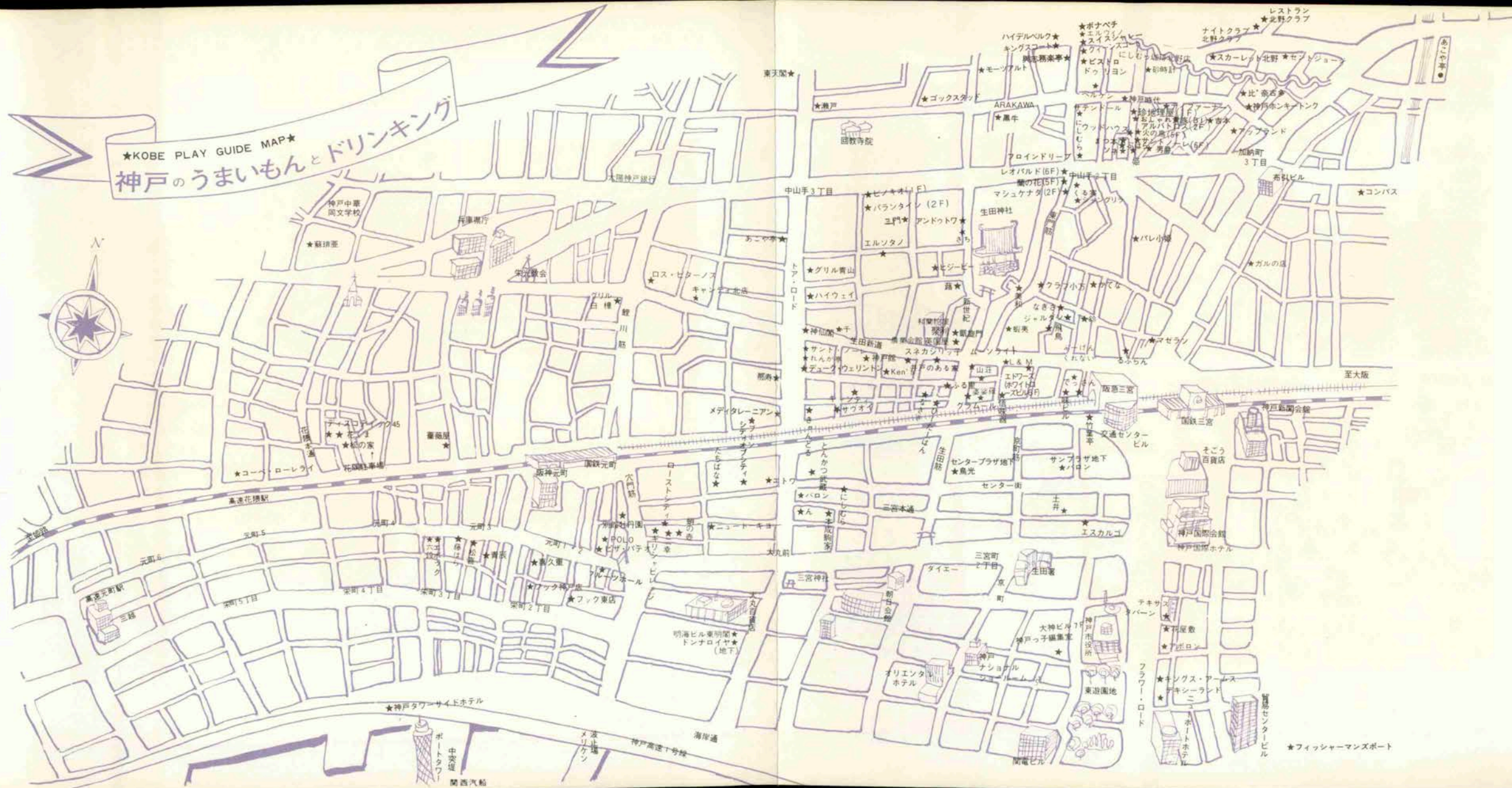
- ドイツレストラン **ハイデルベルク**
 生田区山本通2丁目 ローズガーデン2F ☎ 222-1424
- カプ・リオ **カプ・リオ**
 生田区三宮さんプラザB1F ☎ 391-5206
- シルクロード料理 **ぶはら**
 スパイスレストラン 生田区中山手通1丁目19 クラン山手B1
 ☎ 241-7017
- ★喫茶 **City of City**
 コーヒーラウンジ 生田区三宮町3丁目2-11 ☎ 331-1117
- ティー&スナック **エポック**
 生田区元町通3(浜側) ☎ 331-3694
- 喫茶 **ガーデニア**
 生田区東町113-1 大神ビル1F
 ☎ 321-5114
- 宮水のコーヒー **にしむら珈琲店**
 中山手店・生田区中山手通1-70
 ☎ 221-1872・231-9524
- センター街店・生田区三宮町2-35
 ☎ 391-0669
- 北野店・山本通2-9 ☎ 242-2467
 (会員制) 3F事務所 ☎ 242-1880
- ピアノホール **バックステージ**
 生田区三宮町1 サンプラザ10F サンロイヤル
 ☎ 332-0230
- 珈琲 **モーツァルト**
 生田区山本通2-98 グランドマンション1F
 ☎ 241-3961
- ファッショナブル **キングスコート**
 ソーテイングス ティー・ラウンジ ペントハウス
 生田区山本通2-111 キングスコート内 ☎ 242-7090
- 珈琲 **ん**
 生田区三宮町2丁目25(トアロード) ☎ 391-1589
- ★club **飛鳥**
 c l u b 生田区中山手通1-117 ☎ 331-7627
- c l u b **小万**
 生田区東門筋中島ビル3F ☎ 391-0638・4386
- c l u b **さち**
 生田区中山手通2-75 ☎ 331-7120
- クラブ **千**
 生田区下山手通2-21 ☎ 391-1077
- c l u b **なぎ**
 生田区北長狭通2-1 ☎ 331-8626
- クラブ **るふらん**
 生田区北長狭通1-111-11 ☎ 331-2854
- c l u b **Moon Light**
 B A R 生田区北長狭通1-111-11 ☎ 331-0886・391-2696
 Club ☎ 331-0157

★STAND & SNACK

- PUB & **アップランド**
 RESTAURANT 生田区加納町3-1-34 ☎ 241-8271
- サロ **アルパトロス**
 生田区中山手通1-24-7
 大和ナイトプラザ2F ☎ 231-3300
- DRINKING IS **ウッドハウス**
 AN ART OF LIFE 生田区下山手通1-32 ☎ 241-7320
- ブチヤンソン **音楽の家、ETエトワTOI**
 音楽の家 生田区三宮町3-1 スカウトアビル3F
 神戸トアロード三宮センター街西入口 ☎ 332-1755
- 純会員制 **エドワーズ倶楽部**
 生田区北長狭通1-28
 ホワイトローズビル5・6F 生田新道
 ☎ 391-3300
- SNACK **LM**
 生田区北長狭通1-25 生田新道ビルB1
 ☎ 321-3070
- ナイトイン **おしゃれ貴族**
 生田区中山手通1-24-7
 大和ナイトプラザB1 ☎ 242-1925
- スナック **の花**
 生田区中山手通2丁目30-1
 東門ダイワナイトプラザ5F ☎ 391-4455
- スタンド **かてな**
 生田区中山手通1-90 英健ビル1F
 ☎ 331-1316
- 本店洋酒の店 **キャンティ**
 生田区北長狭通2-3
 ☎ 391-3060・391-3010
- 北店スーパとパンの店 生田区下山手通3-8-9
 ☎ 331-3661
- スタンド **グラムール**
 生田区新築ビル地階 ☎ 331-4637
- スタンド **くる実**
 生田区中山手通1-72 ☎ 331-6985
- サロン **神戸時代**
 生田区中山手通1-28
 モンシャウトコトアビル ☎ 242-3567
- カクテルラウンジ **サヴォイ**
 高梁山側 テキの店北 ☎ 331-2615
- スナック **山荘**
 生田区北長狭通1-22 ☎ 391-5823

- music spot **サントノーレ**
 トアロード店 生田区下山手通2 トア・ロード
 ☎ 391-3822
- 北野店 生田区中山手通1-24-7
 ダイワナイトプラザ6F ☎ 221-3886
- スナック **レオバルド**
 生田区中山手通2丁目30-1
 東門ダイワナイトプラザ6F ☎ 391-0992
- DRINK **スネカジリツ子**
 SNACK 生田区下山手通2 永見ビルB1
 ☎ 391-8708
- Wine and **珍地理屋**
 something 生田区中山手通1-24-7
 大和ナイトプラザ1F ☎ 242-0288
- 素舌洞 **でっさん**
 生田区北長狭通1-258 ☎ 331-6778
- スナック **ビジービー**
 生田区中山手2 ☎ 391-4582
- STAND **マシュケナダ**
 生田区中山手通2-30-1 東門大和ナイトプラザ2F
 ☎ 331-5587
- サロン **パレ小姫**
 生田区加納町4丁目神三ビル2F ☎ 332-1098
- SNACK **シャングリラ**
 生田区中山手通1 マリンビル1F ☎ 391-8941
 グランプリ・中山手通1 ニュー友誼ビル2F
 ☎ 391-4406

★Kobe Play Guide Map★
神戸のうまいもん＆ドリンクing



新張之喜

あの《群愛飯店》が山手にオープンしました。

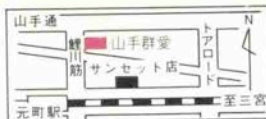


● 広東菜館

群愛有限会社
施兆昌

群愛飯店

神戸市生田区中山手通3丁目65
エーコ山手プラザ1F ☎078(332)5203



建築は風景
お店は商いの顔
寺崎建設株式会社

INTERNETTERASA CO., LTD.

神戸市葺合区国香通2丁目3番8号
(国香第1ビル)電話(078)242-2233(代)
(建築内装工事のことならおまかせください。担当/中島、福田)

協力業社
大光電機株式会社
☎(06)972-5551

株式会社
五島電気商会
☎(078)575-6806

株式会社
川西管工業
☎(078)881-0433

千田厨房設備
☎(078)632-5851



ひときわ優雅に彩る神戸の夜



GRILL & BAR

なぎさ

神戸市生田区中山手通 1-111

☎ (078) 331-3670



CLUB

なぎさ

神戸市生田区北長狭通 2-1

☎ (078) 331-8626



CLUB

とさの

神戸市生田区下山手通 1-5

ゼウスタウンビル 6 F

☎ (078) 391-5838

演奏：芦田清カルテット

神戸の酒徒が今宵も出会う——クラブ小万



CLUB

小万

岩本起代子

神戸市生田区中山手通1丁目114-1(東門筋)中島ビル3F

☎ 391-0638・4386





クラシカルモダンな店内に輝く酒の香り。豊かな会話と
寛ぎのひとつ。夢を追かけるあなたのホームバー。

只今女性募集中

WINE & RESTAURANT

酒夢猫

生田区中山手通1 神戸酒販ビル2F

☎ 332-3308 第1、3日曜休



ヴィヴィッドに、ワイルドに、生きて、飲むために。黒
と白の根源的なデザイン空間が、あなたを原始の世界へ

Salon de JELLE エル

生田区中山手通1 日の出ビル2F

☎ 332-4732



あなたもティファーナで楽しいパーティはいかが? ロス
ティファーナの歌声がいっそう盛り上げることでしょ

メキシコ料理の店

TIJUANA

生田区中山手通1 ☎ 242-0043 無休



いつものようにいつものお酒。ただ何だか今夜はちが
った気分。そんなラベコンスタンタンの夜をあなたに。



SNACK & NIGHT SPOT

ラベコンスタンタン

生田区中山手通1 マリンビル地下

☎ 332-1019 PM 7~AM 1 日曜休(祭日は営業)

TOMBE LA NEIGE

Tombe la neige tu ne viendras pas ce soir
Tombe la neige et mon coeur s'habille de noir

LE SOIR A KOBE

Ce soirex cortage. Tout en larmes blanches
L'oiseau sur la branche. Pleure la sortie.



.....会話に揺れて



LEOPARD
レオバルド

生田区中山手通2 東門ダイワナイトプラザ6F

☎ 391-0992・2125 第1,3日曜休



バレンタイン・デーに語り合うあなたと私の暖かさをバックステージで。まるで二月の風をふきとばすかのよう



生田区三宮町1 サンプラザ10F サンロイヤル

☎ 332-0230 第1, 3月曜休

Coffee Time 11:00~6:00 whisky Time 6:00~12:00



ドイツの雰囲気・本場のドイツ料理・ドイツビール
ドイツワイン・アコーディオン生演奏

Heidelberg
ハイデルベルク

生田区山本通2丁目 ロースガーデン2F

☎ 222-1424 水曜休



フォンデュ独特のしつこい味を、全く日本的な味に変えました。3月までの期間中、ワイン飲み放題。予約要



LOUNGE

羅針盤
コンパス

葦合区二ノ宮町3 大西ビル(海皇)2F

☎ 242-1236 無休

ハイセンスなあなたの社交場……



6:00PM~9:00PMの間は30名様までの貸切りパーティを承っています。ご予算に合わせて用意させていただきます。

●毎夜8:30PM~0:30AM

鍋島直迪のピアノによるミュージックタイム

ムードミュージックからスタンダードジャズなど豊富なレパートリーは雰囲気一段と盛りあげます。また、歌のお好きな方にはステキな伴奏を致します。



Pale. 小姫
Kohime 梅沢 和子

神戸市生田区加納町4丁目

神三ビル2F

TEL (078) 332-1098

6:00PM~1:00AM 日曜祭日休み

姉妹店 / スナック美和 ☎391-3050

パレ小姫では
ハイセンスな女性を募集しています



Saydo
Join People

生田区山本通 2-67-1
北野アレイ
☎ 222-2678

60余種もあるスパゲッティのボリュームと味に北野界わいの外人にも人気。
ロバートブラウン / キープ 4000・100パイパーズ / キープ 5000・水割 500・マインプロイ 400 11:00AM~11:00PM 無休



SNACK
へろ

兵庫区本町 1-1-19
松尾ビル 1F
☎ 671-9003

とても気楽で愉快な店。庶民的で暖かい感じが何よりうれしい。
ロバートブラウン / キープ 4500・水割 400・キリンビール(小) 400
3:00PM~12:00PM 無休

Night in February



SNACK

あすなろ

生田区中山手通1-110-10
ゴールデン会館東側地下
☎ 331-2008

美人との会話と家庭的なムードで、飲んで歌っての楽しいひとときを。
ロバートブラウン / キープ 6000・水割 400・キリンビール(小) 400
5:30PM~12:00PM 無休



SNACK

ゆきどまり

生田区中山手通1-110-10
ゴールデン会館東側 1F
☎ 332-0003

きさくなママと話しがはずみ、店内いっぱい楽しい笑い声が響く気楽な店。
ロバートブラウン / キープ 6500・水割 500・キリンビール(小) 500 5:30PM~12:00PM 日曜休



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通1丁目32
WOODHOUSE 山内ビル
 ☎241-7320・7983



生田・東門筋
CHISATO 東新ビル地階
 ☎331-4730

KOBE EATING & DRINKING GUIDE

JAZZ CLUB

SATIN DOLL

生田区中山手通1丁目57
 富士産業ビル1F
 ☎242-0100



UPLANDS

生田区加納町3丁目
 1-34
 ☎241-8271



ウッドハウス今月のお客さま

右から藤田光雄さん

藤田静江さん

藤田 敦クン

藤田 薫さんの和やか ファミリー

藤田さんは「ビザハウス F」のマスター。今日は店がお休みなので家族そろって「ウッドハウス」で一家団らんのひとつときを楽しんでいます。みなさん「ウッドハウス」の大ファンです。

☆ビール(小) ¥400 水割(OLD) ¥500 おつまみ ¥200 スナック ¥200
 ビラフ各 ¥500 キープ G & G ¥6,000 レギュラースコッチ ¥7,000
 平日 5:00PM~4:30AM 日曜 5:00PM~0:00AM 第1・第3日曜休み

ウッドハウス



サテンドール

3月9日 アート・ベッパ
 カルテットが来店 予約制

☆若いスタッフが熟っぽく働か姿に誘われ、つつい飲みすぎがち。そして流れるジャズに身体を揺らせながらはむ会話。活気ある「サテンドール」をのぞいてみれば、いつのまにかあなたも仲間。そんなサテンドールでは、時折ゲストが来店します。去の暮、12月7日、ボォーカルの後藤芳子さんが来演し、ピアノ・辛島文雄、ベース・水橋孝をバックに、キュートな彼女の魅力を楽しみました。

ハウストリオ (月~土) (渡辺健蔵(b) 近秀樹(p) 岩本龍夫(ds))

毎週月曜日 / ハウストリオ十吉井篤子(vo)

毎週水曜日 / ハウストリオ十ロミ伊藤(vo)

毎週日曜日 / 森宏トリオ、田代泰之トリオ、池田裕志トリオ、西山満ト
 リオら関西のジャズメンの演奏。

☆ビール ¥400 水割 ¥400 ビラフ ¥400 サテンドール 風スナック
 ¥600 チキンバスケット ¥700 エスカルゴ ¥1,000

6:00PM~4:00AM 無休

☆早いものです。阪本千里さんが、この「千里」を始めてもう九年目を迎えるとか。花は九重とか、塔は九層といにしえの頃から「九」は日本で最高の芽出度い数字なのです。明るく、モダンなセンスをもつ、気さくなママはお客さまに愛されて、もう九重の花を咲かされたのです。

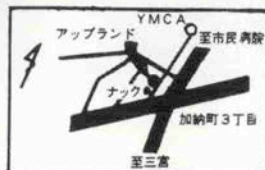
今年は馬年、飛躍の年にと願うママが、神戸での楽しい酒どころとして、酒徒の交流の場として一層充実させることでしよう。

3月3日は9周年。桃の節句に一杯やりませんか……。

チ サ ト



KOBE
 EATING &
 DRINKING
 GUIDE



アップランド

☆あれは、冬の始めだった / 北野坂のあたりで、黒いシッポの犬が。なぜか人恋しそうに私を見上げた / 私は、コートの手を立てた / さっき別れた女のうらみっぽいや……今も背後から私をみつめているような、そんな気がして、振り返ると、ただ、白い風が渦巻くのみ…… (ここで主題歌が入る) なんて、ひとりできがってないで、冬の夜は「アップランド」でみんなと一緒に楽しくやりませんか? (続き) 見上げる男の眼に、北風にクルクル舞う風見鶏が、淋しく映った / ああ、オレもひとりか……。 「ねえ、待った / 何をボンヤリと空を待てるの」 デートの相手が現れた男は嬉々として「アップランド」のドアを押したのだった。(エンドマーク)

☆生ビールを始めました。大ジョッキ ¥600 小ジョッキ ¥400

☆ボーケソーセージ ¥900 シェパーズパイ ¥1,000 スターキ&キドニ
 イパイ ¥1,000 フィッシュ&チップス ¥750 コーニッシュベースティ
 ¥800 プロス (ウェールズ風シチュー) ¥900 ヘレスステーキ ¥2,800
 J & B、G & G、OLD 各 ¥500 ビール ¥500 フィズ ¥600

5:00PM~3:00AM 日曜祭日 6:00PM~3:00AM 無休